

〈論文〉

# 沖縄語那覇方言の焦点助詞と情報構造

狩俣 繁久（琉球大学）

## 1. モーダルな文のタイプと焦点助詞

琉球語に焦点助詞ドウのあることが知られているが、ドウの他に、沖縄島中南部方言（以下、那覇方言）にガ、沖縄島北部今帰仁方言にガとクセー、宮古島方言にガとヌ、宮古伊良部島方言にガとルがある。石垣島方言にはドウだけがある。かりまたしげひさ（2011）、かりまたしげひさ（2017）でドウ、ガ、ヌ、ル、クセーの現れる陳述的なタイプが下位方言ごとに異なることを述べた。狩俣繁久（2019）では沖縄芝居の脚本に現れるドウをとりたて表現の中に位置づけながら、那覇方言のドウに特立の意味があることを述べた。ガ、ヌ、ル、クセーも下の表1の限定に位置づけられ、特立を表す。

表1 那覇方言のとりたて助詞（狩俣繁久 2019 の表を一部改変）

限 定	ドウ（こそ） ダキ（だけ） ビケーン（ばかり）	反限定	ンデー（でも） ン（も）
極 端	マディ（まで） ンチョーン（さえ） ドゥン（さえ） サイ（さえ） ン（も） ヤティン（でも）	反極端	アタイ（ぐらい）
類 似	ン（も）	反類似	ヤ（は）

ドウは、主格のヌ、ガを含む連用格の形式に後接する。述語動詞の焦点化は動詞を連用形にして焦点助詞を付け、スン（する）を組み合わせる。条件づけをあらわす従属複文の従属文を焦点化するとき、従属文の述語の条件形に焦点助詞を付ける。

ドウは、古代日本語のとりたて助詞「ぞ」に対応し、現代日本語の「こそ」に訳されることもあるが、「こそ」に比べて使用される範囲が広く、狩俣繁久（2019）で「ドウは、特立を表す「こそ」に比べて使用の制限が少ないので、いろいろなところに現れ、「こそ」に訳しにくいばあいが多い。ドウそのものは、卓立の強調のような特別なイントネーションにしないでいいのだが、日本語訳を読むとき、卓立の強調にして発音すると、ドウの特立の意味は伝わる」と述べた。ドウの表す特立とは、文を構成する要素の中で、特定の

事物を指し表す要素をとりたてて際立たせて伝えるとりたての意味である。対比や排他は、文脈などの談話構造の中で付与される。

焦点助詞は、単語ではなく、主語、述語、補語といった、文を構成する文の部分を取りたてる。主語や補語が1単語のこともあるが、複数の単語の組み合わせた連語のこともある。また、条件文や引用文等の従属文を取りたてることもある。

本稿では焦点助詞ドウがどのような情報構造に現れるかを検討する。なお、旧情報あるいは topic には波下線を引き、新情報あるいは comment には実線下線を引く。

## 2. 文焦点

次の(1)はAから「何<sup>スー</sup> ヤルバーガ(どうしたの)」と聞かれて、状況説明をしているBの発話である。(2)は雨が降っているようだが直接確認できず、窓際の人に質問している。(1)Bも(2)も、主語のハダカ格の名詞にドウが付いていて、文全体が新情報の文焦点である。(1)のB、(2)のいずれも topic - comment の分割がなく、文全体が comment である。

(1) A: 何<sup>スー</sup> ヤルバーガ?

どうしたの。

B: アヌ<sup>タビンチュ</sup> 旅人ヌ<sup>イフー</sup> 妙ナ<sup>クトゥ</sup> 事 = ドウ 問インデー。

あの旅人が妙なことを聞くんだよ。

多幸山 p. 52

(2) A: アミ = ドウ フ 降トーンナー?

雨が降っているの?

## 3. 部分焦点

文の特定の部分を焦点化させる部分焦点には焦点化される言語単位によって次の二つのタイプがある。条件文、引用文等の従属文に焦点のある従属文焦点と、主文の主語、補語、状況語、述語の文の部分に焦点のある主語焦点、補語焦点、状況語焦点、述語焦点がある。主語焦点、補語焦点、状況語焦点、述語焦点は、それらの文の部分が1単語だけのばあいも、複数の単語の組み合わせのばあいもある。とくに述語焦点は、文末の述語になる単語だけが焦点化されるばあいと、単語の組み合わせた連語全体が焦点化されるばあいがある。

### 3. 1. 従属文焦点

次の(3)のBの例は引用文全体がとりたてられた従属文焦点で、主語はゼロ表示されている。(4)と(5)は理由を表す従属文の述語にドウが付いた従属文焦点である。(4)は逃げていく男を追おうとする息子を制止させ逃げる理由を述べている。(5)は追ってきた理由を仲間に確認する発話である。理由を述べる従属節が新情報で、主文が共有さ

れた旧情報である。

- (3) A : 何<sup>ヌー</sup>ガ、何<sup>ヌー</sup> 問<sup>トゥー</sup>イタガ？

なんだい、何を聞いたの。

- B : 今<sup>ナマ</sup>カラ 二十五年<sup>ニジュウゴニシメ</sup>前<sup>メ</sup> クヌ 村<sup>ムラ</sup>ヌ人<sup>ツチュ</sup>ヌ 人<sup>ツチュ</sup>ンカイ 殺<sup>クル</sup>サツタシェー 居<sup>ウ</sup>ラニ  
ンディ = ドウ インシェンデー。 多幸山 p. 52

今から 25 年前この村の人が人に殺されたのはいないかっておっしゃるの。

- (4) 弱<sup>ヨウ</sup>ミス 有<sup>ス</sup>クトウ = ドウ 逃<sup>イ</sup>ギティ 行<sup>イ</sup>チュル。

弱みが有るからこそ、逃げていくのだ。

多幸山 p. 90

- (5) 汝<sup>イヤ</sup>ガ = ドウ 許<sup>ユル</sup>チェーナランディ 言<sup>イ</sup>チャグトウ = ドウ アンスミンディ 言<sup>イ</sup>  
ヤーニ クママディ 追<sup>チャ</sup>ティ 来<sup>イ</sup>ノー アラニ。

おまえが許してはならないと言ったから、そうするかと言ってここまで追って来たんじゃないか。

口なしの花 p. 156

次の例はふたまた述語文のつづける文の述語の中止形にドウがついて、つづける文全体を焦点化させている。このつづける文は理由やうらめ条件を表す従属文の一部を構成し、その中で新情報を表している。

- (6) 叱<sup>ヌラ</sup>イガ 来<sup>チャ</sup>ルムヌン アラン。タダ<sup>チュクトゥバ</sup> 一言<sup>イ</sup>葉<sup>フ</sup> 言<sup>フ</sup>ー欲<sup>クトウ</sup>サル 事<sup>ア</sup>ヌ 有<sup>ア</sup>ティ = ドウ  
訪<sup>タジ</sup>ニティ 来<sup>チョー</sup>グトウ 此<sup>ク</sup>処<sup>マ</sup>ンカイ 坐<sup>イ</sup>チナーニ。

叱りに来たのでもない。ただ一言、言いたいことがあって、訪ねて来たのだから、ここにすわってごらん。

辻情話 p. 13

- (7) 死<sup>シ</sup>ナンデー ナラン 事情<sup>ジジョー</sup>ヌ 有<sup>ア</sup>ティ = ドウ 海<sup>ウミ</sup>ンカイ 身<sup>ミ</sup> 投<sup>ナ</sup>ギトールムン  
ヌ<sup>ウアー</sup> 上<sup>グトウ</sup>バ事<sup>ツシ</sup> ツシ。

死ななければならぬ事情があって、海に身を投げたんだのに、よけいなことをして。

救われた女郎。p. 7

### 3. 2. 主語焦点

主語を焦点化したいとき、主格の格助詞ガ、ヌの後ろにドウをつける。(8)は追剥に間違えられた人が相手に言い返している発話で、(9)は追剥と言い争っているうちに誤って追剥を殺した人の発話である。主語が新情報で、述語が旧情報である。

- (8) 我<sup>ワ</sup>ガ ミーカラ 見<sup>ン</sup>ジーネー 汝<sup>イヤ</sup>ーガ = ドウ 追<sup>フエーレー</sup>剥<sup>ミ</sup>ナティ 見<sup>ミ</sup>ンデー。

俺の目から見ると、おまえが追剥にみえるぜ。

多幸山 p. 46

- (9) 何<sup>ヌー</sup>ンディ イチン 我<sup>ワ</sup>ガ = ドウ 悪<sup>ワッ</sup>ッサイビール。

何といっても私が悪いのです。

多幸山 p. 64

- (10) A : 我<sup>ワー</sup>ガー 何<sup>ヌー</sup>ン 見<sup>ミー</sup>ヤビランサー。

私には何も見えませんよ。

- B : 汝<sup>イッター</sup>達 シザ<sup>ミー</sup>ノー 見<sup>ワッター</sup>ランサ。我<sup>カミンチュ</sup>達 神人<sup>ヌー</sup>ヌ = ドウ 見<sup>ミー</sup>ユル。

おまえたち凡人には見えないよ。私たち神に仕えるものが見えるんだ。

元の若さ p. 4

### 3. 3. 補語焦点

他動詞の表す動作の働きかけをうける直接対象を差し出す補語にドウが付く。直接対象を表す専用の対格助詞はなく、ハダカ格が表すので、ドウはハダカ格の名詞に直接付く。(12) B は評価を表す形容詞マシ (いい) の評価の対象を表す名詞にドウがついている。(13) は家の中に居ると思っていた「兄」を家の外で見つけた弟分が「兄」に発した発話で、存在動詞「居<sup>ウ</sup>ン」のありかを表す場所名詞にドウがついている。

- (11) 按<sup>ア</sup>司<sup>ジ</sup> 殺<sup>クル</sup>チャ<sup>ワン</sup>シェー クヌ 我<sup>イ</sup> ヤイビン。言<sup>ワン</sup>ルンシェー 我<sup>ウ</sup>ネー 貴<sup>ウ</sup>方<sup>ンジュ</sup>ヌ  
御<sup>ウ</sup>息<sup>ウ</sup>女<sup>ウ</sup>ヌ敵<sup>ウ</sup> = ドウ 討<sup>ウ</sup>ツチ トウ<sup>ウ</sup>ラ<sup>ウ</sup>チョール。

按司を殺したのは、この私です。言うならば、私は貴方のご息女の敵を討ってあげたのだ。春秋幸地城 p. 1174

- (12) A : 汝<sup>イヤー</sup>ガ チャ<sup>トウジ</sup>ッサ 妻<sup>フ</sup> 褒<sup>ワー</sup>ミティン 我<sup>トウジ</sup> 妻<sup>ワー</sup>エー マシ。容<sup>カーギシガタ</sup>姿<sup>ワー</sup>ヤティン 我<sup>ワー</sup>  
妻<sup>トウジ</sup>エー マシ。

おまえがいくら (自分の) 妻をほめても、俺の妻がいい。容姿も俺の妻がいい。

- B : 容<sup>カーギシガタ</sup>姿<sup>ワー</sup>ドウ<sup>ワー</sup>ン ヤ<sup>ワー</sup>レー ユク 我<sup>トウジ</sup> 妻<sup>ワー</sup> = ドウ マシ<sup>ワー</sup>ヤル。

容姿ならかえて俺の妻がいい。

豊年 p. 238

- (13) アイ、兄<sup>アフイー</sup>ヤ 外<sup>フカ</sup>ニ = ドウ 居<sup>ウ</sup>テーサヤー。

おや、兄貴は、外にいたんだね。

救われた女郎 p. 9

### 3. 3. 状況語焦点

動作の行われる時間や場所を表す状況語、原因を表す状況語に焦点をあてるとき、状況語の後ろにドウを付ける。(14) は時間を表す状況語に、(15) は原因を表す状況語に焦点がある。(14) は他人が困っているときに大金を出した身内に金が惜しくはないのかと言われた人の発話である。(15) は数人で殴る蹴るの仕打ちをしている男たちに向かったの発話である。

- (14) 何<sup>ヌー</sup>ヤラ<sup>ジノ</sup>ワン シムサ。銭<sup>バー</sup>一<sup>チカ</sup> クンナ 場<sup>チカ</sup>ニ = ドウ 使<sup>チカ</sup>イル。

何でもいい。銭は、こんな時に使うんだ。

救われた女郎 p. 16

- (15) 大<sup>デークニ</sup>根<sup>トゥ</sup> 取<sup>カ</sup>ティ 食<sup>クト</sup>ダン? エー、ウ<sup>ア</sup>ッピ<sup>ア</sup>グ<sup>ア</sup>ア<sup>ア</sup>ヌ 事<sup>ア</sup>シ = ドウ アンシ 手<sup>ア</sup>ネーイ  
足<sup>ア</sup>ネーイ スルイ。

大根を取って食べた？ねえ、それっぽっちの事でそうやって手を出したり足を出したりするのかい。 口なしの花 p. 154

### 3. 4. 述語焦点

ドウで述語を焦点化するとき、主語は主題を表すとりたて助詞で示された既知の情報で、述語が未知の情報である。旧情報の主語は主題助詞のヤの付いた名詞で表される。旧情報の主語が先行する文脈にあり、当該の文ではゼロ表示されることが多い。

#### 3. 4. 1. 名詞述語焦点

名詞述語文のばあい、主語には主題助詞のヤが付いて旧情報を差し出し、述語全体が新情報である。(16) (17) は新情報を表す述語名詞にドウが付いた述語焦点である。

(16) クニヒャーヤ <sup>ニンジ</sup>人間<sup>ノ</sup>ー <sup>ウニ</sup>アラン。鬼<sup>ニ</sup> = ドウ ヤシガ。

こいつは <sup>ウニ</sup>人間<sup>ニ</sup>じゃない。鬼<sup>ニ</sup>だ。

多幸山 p. 70

(17) A : <sup>ウニ</sup>貴方<sup>ノ</sup>ヨー、誰<sup>ター</sup>ヤミシェーガ？

貴方様は、どちらさまですか？

B : <sup>ウニ</sup>ウスメー、我<sup>ニ</sup> = ドウ ヤシガ。

じいさん、俺<sup>ニ</sup>だ。

救われた女郎 p. 4

(18) は自分の持っている刀の所有権を否定された若者がその刀の出所を主張する発話である。ドウは、被修飾語の名詞「刀」<sup>カタナ</sup>に付いているが、主要な情報は連体修飾節にあり、連体修飾節が comment である。(19) も (20) も述語名詞の「美童」<sup>ミヤラビ</sup>「子」<sup>ツクア</sup>だけでなく、連体修飾語「クヌ <sup>ムラ</sup>村ヌ」<sup>イヤ</sup>「汝」を含めた述語に焦点があり、主要な情報は連体修飾部「クヌ <sup>ムラ</sup>村ヌ」<sup>イヤ</sup>である。主語の「クヌ <sup>カタナ</sup>刀ー」<sup>イヤター</sup>「汝達ヤ」<sup>アカンガ</sup>「クヌ <sup>ムラ</sup>赤子ー」は旧情報で topic である。

(18) A : <sup>ワラー</sup>笑<sup>コ</sup>スナケーヒャー。クヌ <sup>カタナ</sup>刀ー 我<sup>ワッター</sup>達 <sup>ウフスー</sup>大主<sup>ワカ</sup>ガ <sup>トウチ</sup>若サル <sup>ス</sup>時<sup>イ</sup>ニ <sup>ス</sup>首<sup>イ</sup>里カラ  
買<sup>コ</sup>ティチャル 刀 = ドウ ヤル。

多幸山 p. 88

笑わせるな。この刀は、うちの伯父が若い時に首里から買ってきた刀だ。

(19) A 1 : <sup>ミヤラビ</sup>へイ、美童ヌチャー。<sup>ハジ</sup>初<sup>ミ</sup>ティヤー。

やあ、娘さんたち。初めてだね。

B 1 : 初<sup>ミ</sup>ティヤーナー。

初めてだね。

A 2 : 汝<sup>イツター</sup>達ヤ クヌ <sup>ムラ</sup>村ヌ 美童<sup>ミヤラビ</sup> = ドウ ヤルイ。

あなたたちは、この村の娘かい。

B 2 : オー、クヌ <sup>ムラ</sup>村ヌ <sup>ムン</sup>者<sup>ムン</sup>ドーナー。

はい、この村のものだよ。

多幸山 p. 54

- (20) A 1: クヌ <sup>アカンダ</sup> 赤子ー <sup>イヤー ツクア</sup> 汝 子ー アラン = ドウ アルイ。

この赤ん坊はあなたの子ではないのか。

口なしの花 p. 126

### 3. 4. 1. 形容詞述語焦点

形容詞のサ連用形にドウを後接させ、補助動詞アンと組み合わせて述語形容詞を焦点化する。テンス・ムードは、補助動詞アンの活用形によって表す。

- (21) <sup>ヌー</sup> 何ガサイ。アンスカ <sup>ワシ</sup> 我ネー 怖ルサ = ドウ アイピールイ。

どうした。それほど私は怖いのですか。

春秋幸地城 p. 1124

### 3. 4. 2. 動詞述語焦点

述語動詞が自動詞のとき、(22) のように述語動詞だけを焦点化させることができる。他動詞のとき、直接対象を含む連語を焦点化させることもできる。(23) は述語動詞の連用形に焦点助詞が付いているが、述語動詞は他動詞で、直接対象を表す補語の「何ガナ」を含む連語に焦点がある。主語「汝ヤ」はゼロ表示されている。この肯否質問文は、述語が差し出す物事を確認したくて尋ねているのである。命令文には焦点助詞は現れないが、(24) のように主語が2人称で、未来の動作を表す意志動詞が述語のとき、述語に焦点助詞を付与すると、命令文のように動作の促しを表す。(25) は「<sup>ニオーブトゥキ</sup> 仁王像ンカイ 似<sup>ニ</sup>チョーサ」の補語を含んだ連語に焦点のある連語述語である。(26) は補語「<sup>サキ</sup> 酒」と他動詞述語「イミーン (催促する)」の連語に焦点のある連語述語である。

- (22) アンマー。何ガ。 <sup>ヌー</sup> 汝ヤ <sup>ナ</sup> 泣チ = ドウ ウルイ。

おばさん。どうしたの？ あなたは泣いているの。

口なしの花 p. 164

- (23) <sup>ナー</sup> 汝ヤ <sup>ウン</sup> 運ヌ <sup>ワツ</sup> 悪サターサ。アンシ <sup>ヌー</sup> 何ガナ <sup>トゥ</sup> 取ラリー = ドウ シンソーチー。

あなたは運が悪かったんだ。それで何か取られたんですか。

多幸山 p. 42

- (24) <sup>ナマ</sup> 今カラー <sup>ツチュ</sup> 人ヌ <sup>ムン</sup> 物ヤ <sup>ヌス</sup> 盗マンガトゥ <sup>トゥ</sup> 取イ = ドウ スンドー。

これからは人の物は盗まないで、取るんだよ。

口なしの花 p. 158

- (25) <sup>イヤー トウジ</sup> 汝 妻ヌ <sup>カーギシガタ</sup> 容姿ヤ <sup>ヌー</sup> 何ヌ <sup>グトー</sup> 如ンディ <sup>ウム</sup> 思ユガ。 <sup>ニオーブトゥキ</sup> 仁王像ーンカイ = ドウ

似<sup>ニ</sup>チョーサ。

おまえの妻の容姿はどんなだとおもう？仁王像に似ているぜ。

豊年 p. 238

- (26) <sup>チャコ</sup> ウヌ <sup>ウ</sup> 客ー <sup>ウ</sup> キサカラ <sup>ウ</sup> 御酒ビケーイ <sup>ウ</sup> ウサガティ <sup>ス</sup> メンシェーシガ、<sup>タ</sup> 飲ミ足  
ラーンガ アミシェーラ、<sup>サキ</sup> 酒 = ドウ イミーンデー。

そのお客はさっきからお酒ばかり召し上がっていらっしゃるが、飲み足りないのか、酒を催促するんだよ。

草枕 p. 15

#### 4. 焦点構造と主題

叙述文、肯否質問文、確認文、疑い文などの異なるモーダルな文のタイプの中でドウがどのように現れるかを見てみる。

##### 4. 1. 叙述文

肯否質問文に対する答えの叙述文は、(27) B のように、質問者が確認したかったドウのついた部分に対応し新情報を提供している。(28) B も肯否質問文に対する答えの叙述文だが、ドウは含まれない。(27) B の答えは質問者にとって想定外の新情報であり、(28) B は未確認ではあったが、想定された情報である。

(27) A : アンシーネー <sup>ニッター</sup> 汝達ヤ <sup>エーキンチュ</sup> 富貴人ヤンシェンター。

それなら、おたくは金持ちでいらっしゃいますね。

B : <sup>エーキンチュ</sup> 富貴人<sup>ヌー</sup>ン <sup>ヌー</sup> 何ン <sup>アタ</sup> アランドーナー。 <sup>アタ</sup> 当イ<sup>メー</sup>前ヌ <sup>ヒヤクショー</sup> 百姓 = ドウ ヤル。

金持ちでもなんでもないよ。普通の百姓だ。

多幸山 p. 30

(28) A : <sup>イッター</sup> 汝達ヤ <sup>ムラ</sup> クヌ <sup>ミヤラビ</sup> 村ヌ <sup>ミヤラビ</sup> 美童 = ドウ ヤルイ。

あなたたちは、この村の娘かい。

B : オー、<sup>ムラ</sup> クヌ <sup>ムン</sup> 村ヌ <sup>ムン</sup> 者ドナー。

はい、この村のものだよ。

多幸山 p. 54

疑問詞質問文にはドウは現れないが、疑問詞以外の部分が既知の情報で、質問者にとって未知の情報を疑問詞が差し出す。疑問詞質問文に対応する答えの叙述文は、前出の(1) B, (3) B, (17) B のように疑問詞に答える情報にドウが付く。このドウのついた部分は、質問した相手にとって未確認の新情報である。前出の(25)の文は同一人物の発話だが、初めの文は疑問詞質問文で、二つ目答えの叙述文は、疑問詞に対応する情報にドウがついている。

(29) の叙述文は、25 年前に夫を殺した犯人が名乗り出た場面での妻の発話である。他動詞文の補語（直接対象）に主題のとりたて助詞を付け、topic として主語の位置に据え、comment の位置に主語と他動詞述語の組み合わせを配置している。comment のなかでドウの付いた部分が新情報になる。琉球語の同様の例として宮古島方言では(30)のように対格助詞ユの後ろにさらに主題を表すとりたて助詞バを付けた形式を文頭の主語の位置に配置して topic として表す構文がある。

(29) ハキサミヨー <sup>フン</sup> 我 <sup>ウト</sup> 夫ー <sup>イヤー</sup> 汝ーガ = ドウ <sup>クル</sup> 殺チャンヤー。

なんだって。私の夫はおまえが殺したのね。

多幸山 p. 54

(30) <sup>タイガミ</sup> 手紙<sup>バ</sup>ユーバー <sup>カ</sup> 我ーガ = ドウ <sup>カ</sup> 書キス。

手紙は私が書く。

## 4. 2. 肯否疑問文

肯否質問文では質問者にとって未確認の情報を聞き手が所有しているだろうという前提のもとに質問者が想定した未確認の情報にドゥをつけて特立させて聞き手に質問する。

(31) (32) (33) は質問者が相手の素性を尋ねる述語に焦点がある。ドゥを付けて焦点化された情報は未確認の情報である。確認したい内容に関する手がかりが発話場面や先行する場面に与えられている。(34) は二人の暮らしへの不満を愚痴っている相手にそのわけをおしはかって確認している。(35) は訪ねて来た見知らぬ女に対してその身なりや言葉遣いから判断した相手の素性を確認している。

- (31) <sup>ス イ</sup>首里ヌ <sup>ムートツヤー</sup>本家ンディ <sup>イ</sup>言ネー, <sup>ナ</sup>アンシーネー <sup>ス イ チュ</sup>汝や <sup>ナ</sup>首里ン人 = ドゥ ヤルイ。  
首里の本家という、そうすると、あなたは首里の人なのか。 多幸山 P. 32

- (32) A 1 : <sup>ニッター</sup>アンシーネー <sup>エーキンチュ</sup>汝達や <sup>アタ メー</sup>富貴人ヤンシェンター。  
それなら、おたくは金持ちでいらっしゃいますね。  
B : <sup>エーキンチュ</sup>富貴人ン <sup>ス</sup>何ン <sup>アタ</sup>アランドーナー。当イ前ヌ <sup>ヒャクショー</sup>百姓 = ドゥ ヤル。ヤシガ  
<sup>ナ</sup>汝や <sup>ツチュ</sup>クリカーヌ <sup>ナ</sup>人 = ドゥ ヤンシェールイ。  
金持ちでもなんでもないよ。普通の百姓だ。ところで、あなたは、この辺  
の方でいらっしゃいますか。  
A 2 : <sup>ワン</sup>我ネー <sup>ヤマ</sup>クヌ <sup>クシ</sup>山ヌ <sup>ク</sup>後ウティ <sup>ク</sup>暮ラチョンドー。

私はこの山の後ろで暮らしているよ。 多幸山 p. 30

- (33) A 1 : <sup>ミヤラビ</sup>ヘイ, <sup>ハジ</sup>美童ヌチャー。初ミティヤー。

やあ、娘さんたち。初めてだね。

- B 1 : 初ミティヤーナー。

初めてだね。

- A 2 : <sup>イッター</sup>汝達や <sup>ムラ</sup>クヌ <sup>ミヤラビ</sup>村ヌ <sup>ミヤラビ</sup>美童 = ドゥ ヤルイ。

あなたたちは、この村の娘かい。

- B 2 : オー, <sup>ムラ</sup>クヌ <sup>ムン</sup>村ヌ <sup>ムン</sup>者ドナー。

はい、この村のものだよ。

多幸山 p. 54

- (34) <sup>チルー</sup>鶴, <sup>ク</sup>アンスカ <sup>ク</sup>クヌ <sup>アフ</sup>暮ラシェー <sup>ワン</sup>哀リヤミ。我 <sup>シ</sup>好カン <sup>ナ</sup>ナトーグトウ = ドゥ  
<sup>アフ</sup>哀リンディ <sup>ウ</sup>思マリーエーサニ。

鶴よ。そんなにこの暮らしは苦劳かい。私を嫌いになったから、苦劳だとおもう  
んじゃないのか。 辻情話 p. 5

- (35) <sup>イヤー</sup>汝や <sup>ズリ</sup>女郎 = ドゥ ヤエーサニ。

おまえは、女郎だろう。

口なしの花 p. 102



#### 4. 3. 確認文

(36) (37) は、確認要求の文で、相手が否定している情報、あるいは忘れていた情報を改めて確認するための発話で、ドウは共通認知の旧情報を焦点化させているが、(36)は誰が言ったのかを改めて確認し、(37)はここに来ることになった理由が相手にあることを確認している。確認文では改めて確認したい情報にドウを付ける。

(36) A : エーナー <sup>ワシ</sup> 我ネー 何 (ヌー) <sup>イナ</sup> ンディン 言<sup>イナ</sup>ンムンヌ。

おいおい、俺は何も言っていないのに。

B : <sup>イナ</sup> 汝<sup>イナ</sup>-ガ = <sup>カナー</sup> ドウ <sup>ウディ</sup> 加那<sup>イ</sup>ンカイ 腕<sup>イ</sup>カキランディ 言<sup>イ</sup>チャノー アラニ。

おまえが加那に腕相撲しようって言ったんじゃないか。 口なしの花 p. 102

(37) <sup>イナ</sup> 汝<sup>イナ</sup>-ガ = <sup>ユル</sup> ドウ <sup>イ</sup> 許<sup>イ</sup>チェーナランディ 言<sup>イ</sup>チャグトウ = <sup>イ</sup> ドウ <sup>イ</sup> アンスミンディ 言<sup>イ</sup>ヤーニ <sup>ウー</sup> クママディ <sup>チャ</sup> 追<sup>イ</sup>ティ 来<sup>イ</sup>ノー アラニ。

おまえが許してはならないと言ったから、そうするかと言ってここまで追って来たんじゃないか。 口なしの花 p. 102

#### 4. 4. 疑い文

(38) は先行の場面で自らの境遇を話しそれを聞いた女性が泣き出したのを見て、その理由を自問している発話である。文全体が新情報で、主語焦点と述語焦点のある文で、主語と述語の両方を取りたてている。

(38) アンマー。何ガ。 <sup>ヌー</sup> 汝<sup>ナ</sup>ヤ <sup>ナ</sup> 泣<sup>ナ</sup>チ = <sup>ナ</sup> ドウ <sup>ワ</sup> ウルイ。 <sup>ワ</sup> 我<sup>ムヌー</sup>ガ <sup>ワ</sup> 物<sup>ワ</sup>言<sup>ワ</sup>ヨーヌ = <sup>ワ</sup> ドウ <sup>ワ</sup> 悪<sup>ワ</sup>サ = <sup>ワ</sup> ドウ <sup>ワ</sup> アタガヤー。

おばさん。どうしたの。あなたは泣いているの。私の言い方が悪かったのかなあ。

口なしの花 p. 164

#### 4. 5. 推量文

推量文のばあい、話し手が所有している情報のうち、推量した未確認の情報にドウを付けてさしだす。周囲の状況やそれ以前の前提となるできごとから間接的に確認した情報をドウで焦点化する。推量の手がかりが発話場面や先行する場面に与えられていて、それを手掛かりに推量した情報にドウを付けて差し出す。

(39) カンシ <sup>イチャ</sup> 会<sup>イ</sup>イシン <sup>ヌー</sup> 何<sup>イ</sup>ガナヌ <sup>イ</sup> 縁<sup>ア</sup>ヌ <sup>ア</sup> 有<sup>イ</sup>ティ = <sup>イ</sup> ドウ ヤルハジ。

こうして出会うのも何かの縁があつてなのだろう。 口なしの花 p. 166

(40) <sup>イツカティー</sup> 一家<sup>マジュン</sup>一<sup>ク</sup>チウティ カンシ <sup>イ</sup> 一<sup>イ</sup>緒<sup>イ</sup> 暮<sup>ア</sup>ラスシン <sup>イ</sup> 縁<sup>ア</sup>ヌ <sup>ア</sup> 有<sup>イ</sup>タグトウ = <sup>イ</sup> ドウ ヤルハジ。

一つ屋根の下でこうやって一緒に暮らすも縁があったからなのだろう。

救われた女郎 p. 20.

#### 4. 6. まとめ

文焦点、主語焦点、述語焦点の項で見たように、叙述文および疑い文のドウは、topic – comment 構造の中で新情報を差し出す comment の中に現れる。主語焦点のばあい、主語が新情報で、述語が旧情報である。述語焦点のばあい、述語が新情報で、主語が旧情報である。肯否質問文、確認文では、間接確認した情報を聞き手に確認するとき、確認したい情報にドウを付けて示す。推量文では間接確認した情報にドウを付けて聞き手に差し出す。ドウで示された情報は必ずしも新情報ではない。

ドウは、叙述文の topic – comment 構造の中で新情報として特立させたい部分に付け、肯否質問文や確認文では確認したい未確認の情報として特立させたい部分に付け、推量文では間接確認した情報として特立させたい部分に付ける。

付記：本稿は、国立国語研究所の共同研究プロジェクト「対照言語学的観点から見た日本語の音声と文法」および基盤研究（S）「言語系統樹を用いた琉球語の比較・歴史言語学的研究」の研究成果の一部である。

#### 調査資料

『那覇の方言－那覇市方言記録保存調査Ⅲ 沖縄言語研究センター研究報告』沖縄言語研究センター編，1994

「沖縄芝居テキスト・喜歌劇『豊年』」『琉球列島における音声の収集と研究Ⅱ 琉球列島班研究成果報告書』，1993

#### 参考文献

かりまたしげひさ（2011）「琉球方言の焦点化助辞と文の通達的なタイプ」『日本語の研究』第7巻4号，69～81

かりまたしげひさ（2017）「琉球語那覇方言の du のとりたて性－琉球諸語に係り結びはあるか－」『琉球アジア文化論集』第3号，25～41

狩俣繁久（2019）「琉球語のとりたて表現」『日本語と世界の言語のとりたて表現』くろしお出版，77－95

下地理則（2019）「現代日本語共通語（口語）における主語の格標示と分裂自動詞性」『日本語の格標示と分裂自動詞性』竹内史郎・下地理則編，くろしお出版，1～36

下地理則（2018）『南琉球宮古語伊良部島方言』東京外国語大学アジア・アフリカ文化研究所